

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 山本 淳彦

1. はじめに

この度、2月26日から3月18日までの3週間、カナダのバンクーバーに滞在いたしましたので報告します。ホームステイに滞在しながら、EF Education First という語学学校に通っていました。英語力の向上、異国間での文化の違いを肌で感じる、海外の友達作りなどといった目的を持って、留学を決意しました。

2. 語学学校

私が通っていた語学学校は、バンクーバーのダウンタウンにあります。スカイトレインと呼ばれる電車で通い、最寄り駅はグランビルという駅です。初めてその場を訪れた時、町の大きさに驚きました。私の住む京都には見られないくらい大きなビル、BAR や飲食店、ショッピングセンターなどが立ち並んでいました。そんな町中に EF School がありました。

EF では人それぞれのレベルにあったクラスに分けられ、Reading、Listening のテストを事前に受け、入学初日に Speaking のテストを受けることになっていました。実際の初日の Speaking の授業では、10人くらいの中でさらに2人1組のペアになり、お互いの自己紹介と簡単な質問をした後、みんなの前でペアの人について紹介しあいました。私のペアはドイツ人の学生で、その子の英語はとても流暢でした。ほかの学生は、スイス、スペイン、コロンビア、メキシコ、ブラジルなど、世界中から来ていました。ヨーロッパや南米にいる学生たちは、英語で聞いたり話したりすることが元々できており、尊敬するとともに悔しさを感じました。日本人は Grammar や Reading は得意な人が多いけれど、Speaking や Listening が苦手であることが際立っていたとともに、私もそのうちの一人でした。

私は全体の中で下のほうのレベルのクラスに分けられました。クラスには割と南米の学生が多くて、日本人も数人いました。なるべく日本人とかかわる機会を減らし、自分から積極的にクラスメイトに話しかけて、簡単な自己紹介などをし続ける努力をしました。ここでも新たな発見がありました。人によって発音が異なるということ、正しい文法で話しているのに自分の英語が発音のせいで伝わらない・発音のせいで相手が何を言っているのかわからないということです。今まで日本人の英語を聞きなれていた私は、この時初めて中学校や高校の時代の英語の担任の先生が口酸っぱく語っていた発音の大切さを痛感することができました。文字にすれば理解できるのに、音では聞き取れず理解できない。英語を8年近く学んできたのにこんなに自分が英語を言葉として使えなかったことに、もったいなさと悔しさを感じました。日本語なら簡単にコミュニケーション取れて友達なんてすぐできるのに、いざ英語で友達を作ろうとしてもなかなか仲のいい友達は正直作れません

でした。ある程度ジェスチャーや単語などで表現できても、深い話やたわいもない話ができるほどのボキャブラリーもありませんでした。とりあえず理解できなかつたことを理解できるまで、聞き取る努力をすることが精一杯でした。

授業の内容は正直退屈でした。やっている内容は中学校の英語のようでした。すぐにクラス変更のためのテストを受け、上のクラスに行くことができました。そのクラスでは、主に授業で、とにかく会話やプレゼンテーションをしました。自分のやりたいこととマッチしていたので、最高の環境でした。授業中は、ほかの外国の学生たちはどんどん自分の意見を発信しており、私もそれを見習い自分の意見を発信し続けました。プレゼンテーションでは皆それぞれ自分なりの考えを持ち、相手の関心を引き付けるようなプレゼンを行っており、改めて自分も普段からいろんなことに興味や関心を持ち続けることが大事だということを感じました。



3. ホームステイ先

私のホームステイ先は、学校から電車とバスを使って30分ほどかかる割と近めな場所でした。そこには自分を合わせた8人の留学生や大学生と、インドからの移民であるマザーとファザーの合計10人ほどで住みました。夕食は毎日7時にみんなで集まって食べることに決まっていました。そこでみんなで一日あったことを話し合い、お互いの文化についても話し合いました。日本では食事をする前に必ず、いただきますという習慣があるのに対して、海外では一切何も言わないことに文化の違いを感じました。こういうちょっとした文化の違いが、非常に興味深かったです。夕食はほとんどが手作りだったので、満足していました。夕食以外の時間はマザーと会話をし続けました。またナイジェリア出身の高校生とは、日本の漫画やゲームが好きだったためそれらについて語り合ったり、ゲームを一緒にしたりなどをして距離を縮めました。生物学を勉強している理系の大学生とは、お互いの共通する勉強内容について語り合ったり、将来の夢について語り合ったりなどし、充実した生活を送ることができました。



4. アクティビティや普段の生活について

週末にはEFのアクティビティを利用して、カナダのヴィクトリアに行きました。カナダはこの時期が雨季で、天気がずっと悪かったにもかかわらず、その日は運良く晴れ観光日和でした。バンクーバーからバスと船を使っていき、その地で有名な食べ物を食べたり、CRAIGDARROCH CASTLE と呼ばれる城に入ったりもしました。バンクーバーでは、ガイドブックに載っている美味しい料理を食べに行ったり、スタンレーパークと呼ばれる自然豊かな場所を散歩したり、イングリッシュベイと呼ばれるところに行ったりもしました。夜にはBAR などに行き、地元の人たちや同じ留学生の仲間と楽しい時間を過ごすことができました。授業以外の時間に海外の子と遊びに行く時間が、語学力の向上において大切だと感じました。



in ヴィクトリア

5. 最後に

この留学を通して英語を勉強しなければならないという考えから、英語をもっと勉強し

たいという考えに変わりました。英語はただ勉強するだけでなく、話せるようにならなければもったいないと感じました。振り返ればこの留学は挫折の連続でした。その度にもっと英語を話せたら仲良くなれるのに、もっとボキャブラリーがあれば面白いとも言えるのに、友達も増えて視野も広がるのに、などたくさんの思いでいっぱいになりました。たった3週間の留学でしたが、得られたものは本当に大きかったです。この期間にある程度は話したり、聞いたりする能力が上がったと感じています。日本でも英語を使う機会を増やしていきたいと感じました。英語は生涯学習になりそうです。日本語と同じです。ただ英語よりも日本語のほうが習得するのが難しそうだなと思いました。英語を習得したいという思いが本当に強まりました。学生生活はあと3年あるので、本気で頑張ってみようと感じました。

英語力以外にも得られたことが多くありました。自分の考えをはっきり言葉にして言うということ。日本人は海外の人と比べて、その点では控えめな人種だということを現地で比べてみて改めて感じました。私ははっきりと自分の意見を言える人になりたいです。

将来の夢を叶えるためにも、今回の留学は大きな通過点となりました。これらを支援してくださった学校に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

